

低K血症を認め、KCl投与にて症状改善する。入院時現症：意識清明、精神機能正常、一般理学的所見に異常なし。神経学的には両上下肢近位筋優位に筋力低下を認めた。Trousseau 徴候陽性。検査所見：血清K, Cl, Pが各々低値。CPK, LDHが各々高値を呈し、著明な代謝性アルカローシスをみた。PRA, PAC, Angiotensin I, IIが各々高値であった。またAngiotensin infusion testでは、反応性低下をみた。Ccr低下。FishbergとPitressin testで尿濃縮力低下をみた。筋電図では、筋原性変化を認めなかった。また腎生検は行ない得なかったが、入院経過を通じて正常下限の血圧を呈し、下剤、利尿剤の投与もなく、厚生省研究班の診断基準を満たしており、Bartter症候群と診断した。脱力発作は入院時、入院中の計2回起こり、この時の血清Kは2.1~2.2mEq/lと寛解期よりも低く、また発作に一致して、CPK, LDHの上昇をみた。なおこれら酵素はIndomethacin, KCl, Spironolactone投与により、血清Kが正常化するにつれ、低下した。本症の脱力発作は臨床症状からみると周期性四肢麻痺の特徴を備えているが、myopathyを示唆する著明な酵素変動を認め、筋生検は行なえなかったが、Hypokalemic myopathyに分類されるものと考えた。Bartter症候群における筋病変の検索は重要で、今後症例の集積が必要と思われた。

6. 遠隔転移をきたした乳癌への温熱療法

(胸部外科)

○田原 士朗・曾根 康之・笹生 正人・
毛井 純一・板岡 俊成・長柄 英男・
横山 正義・和田 寿郎

当教室では、現在までに24例の進行癌に対して66回の全身温熱療法を施行してきた。今回、stage IVの乳癌に対して、温熱療法を施行し、明らかな抗腫瘍効果を認めたので報告する。症例は67歳女性、骨転移等の遠隔転移を認めた進行性乳癌で、左前胸部、上腕、腰部、右大腿部の疼痛を認めた。これに対し肺動脈温を指標とした血液加温法による全身温熱療法を2回、270分にわたり施行した。温熱療法後は、著明な疼痛の軽減、及び視診触診上、腫瘤の縮少が認められ、温熱療法の抗腫瘍効果が考えられた。

質問

羽田野為夫(心研小児科)

- 1) 温熱療法で副作用、合併症はどうか。
- 2) 副作用発生と療法時間との関係はあるか。

応答

田原 士朗(胸部外科)

- 1) 肺動脈温を41°C~42°Cに保ち、42°C以上になら

ないようにすれば溶血、意識障害等の合併症は少ない。

2) ESHの時間の長さよりも高温に対しての方が障害の発現と関係が深いと考えられる。

7. ポートワイン血管腫に対するDye Laser(色素レーザー)による治療

(形成外科)

○植木伊津美・井砂 司・南雲 吉則・
笹本 良信・佐々木健司・若松 信吾・
野崎 幹弘・平山 峻

ポートワイン血管腫の治療には、アルゴンレーザー装置を使用してきたが、皮膚表面の瘢痕化が少なからず認められ、治療効果は、未だ充分なものではないと思われる。そこで、正常皮膚とポートワイン血管腫の光の吸収率の差が最大である波長575nmの光を発する色素レーザー装置にて、治療を行なってみた。

色素レーザーによる治療例では、皮膚表面の瘢痕化が、ほとんどみられず、全体にアルゴンレーザーよりも良好な結果が得られた。しかし、出力エネルギーが小さく、血管に対するレーザー光の選択的吸収が大きいため、皮膚組織深部への透過性が少ないので、植皮後の辺縁再発例、全層拡張型には効果がみられなかった。従って、これらの症例はアルゴンレーザーの絶対的適応といえることができる。

色素レーザー装置による治療の特長として、1. 小児でも麻酔なしで照射可能である。2. 正常組織の破壊変性が少なく、創治癒が早く瘢痕化が起こりにくい。3. 表在性の血管腫しか破壊できない。4. 反復照射が必要である、等があげられる。

ポートワイン血管腫を、どのように治療するにせよ、まず、色素レーザー照射を第一選択とし、これからの症例を重ねていきたいと思う。

8. Deltoid free flap transferによる足底部再建の2症例

(形成外科)

○南雲 吉則・井砂 司・植木伊津美・
笹本 良信・佐々木健司・若松 信吾・
野崎 幹弘・平山 峻

軟部組織再建にあたっては種々のcutaneous flapやMC flapの中からその再建目的にかなうため、より好ましいdonor siteを選択する必要があるが、一般に求められる条件は①薄く、②柔軟性のある、③sensory flapで、④donor siteが最小の犠牲ですむことといえよう。我々はこれらの条件を満足しうるdeltoid free flapの2症例を経験したのでここに報告した。